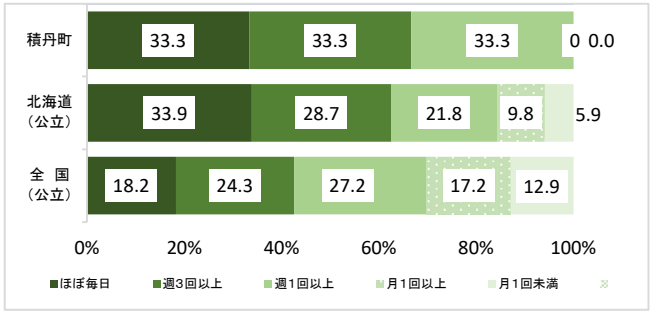
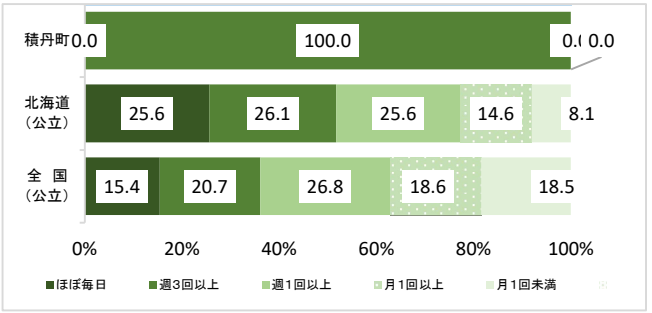
○ 質問調査の状況　※児童数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、小学校の質問調査のデータは掲載していない。

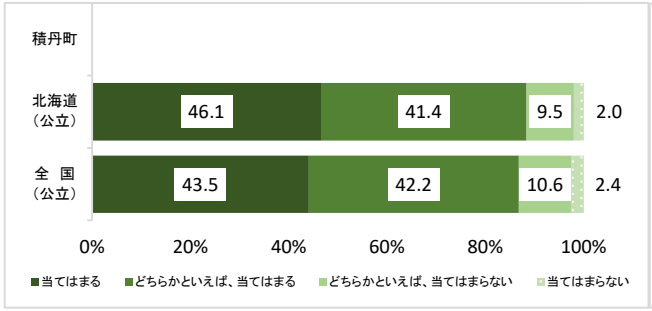
小学校
＜学校質問＞
児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



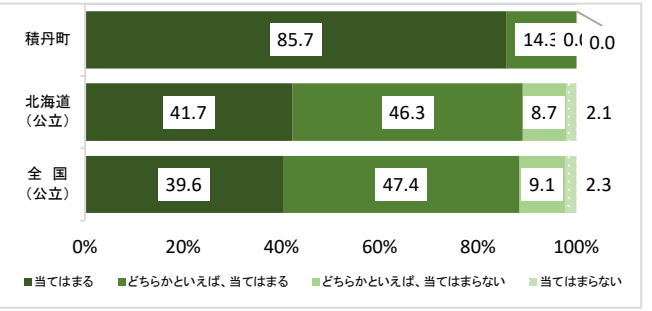
中学校
＜学校質問＞
生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



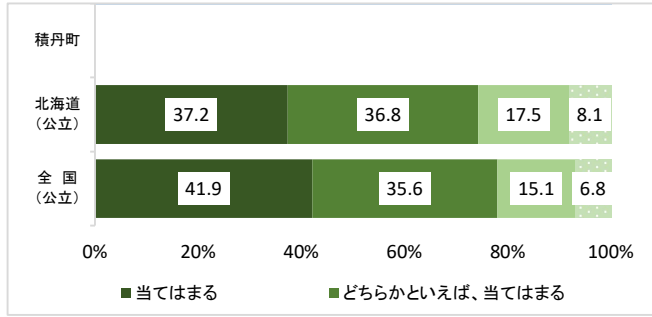
小学校
＜児童質問＞
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



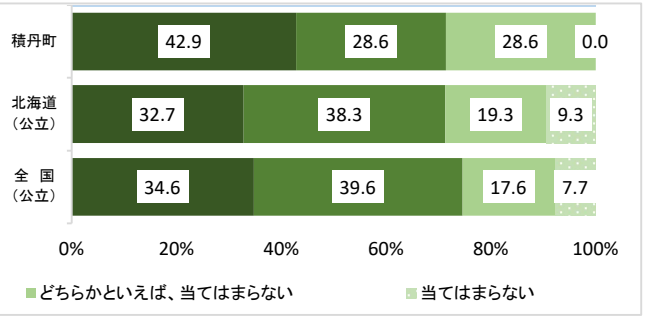
中学校
＜生徒質問＞
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



小学校
＜児童生徒質問＞
算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか



中学校



○ 調査結果の分析

- 受験児童数が少なく分析は困難であるが、小学校において、児童同士がやりとりする場面で、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した児童の割合は、全国及び全道を上回った。
  学校質問におけるICT機器の使用頻度も同様であった。
  こうした結果は、協働的な学びの場面において、令和7年度に更新し、児童一人一人に配備されたICT機器の活用が進んでいることが要因の一つと考えられる。

- 中学校においては、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を大きく上回った。
  このことは、学校質問において「生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」との問いへの回答が、昨年度「月1回以上」であったのに対し、今年度は「週3回以上」へ向上していることが要因の一つと考えられる。
  その一方で、「ほぼ毎日」ICT機器を使用するとの回答がなかったことから、さらなる活用の余地があると考えられる。

○ 今後の改善方策

- 引き続き、子どもたち一人一人の可能性を最大限引き出すことを目指し、ICT機器を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。

- 中学生を対象とした放課後学習やオンライン形式によるサポートゼミナールを継続実施し、個別の生徒に特化した指導による学習習慣の定着と学力の向上を図る取組を推進する。